

⑫ 公開特許公報 (A) 平1-310058

⑬ Int. Cl.⁴
E 04 F 15/04識別記号 庁内整理番号
A-7805-2E

⑭ 公開 平成1年(1989)12月14日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全3頁)

⑮ 発明の名称 耐圧複合床材

⑯ 特願 昭63-140814

⑯ 出願 昭63(1988)6月8日

⑰ 発明者 馬場 重和 静岡県浜松市中沢町10番1号 ヤマハ株式会社内

⑰ 出願人 ヤマハ株式会社 静岡県浜松市中沢町10番1号

⑰ 代理人 弁理士 秋元 輝雄 外1名

明細書

1. 発明の名称

耐圧複合床材

2. 特許請求の範囲

(1) 表面化粧単板の裏面に耐荷重裏打ち材を貼りし、これを床材のベースとなる台板の裏面に圧着したことを特徴とする耐圧複合床材。

(2) 前記耐荷重裏打ち材が、フェノール樹脂合皮紙であることを特徴とする請求項第(1)項記載の耐圧複合床材。

(3) 前記耐荷重裏打ち材の裏面に、クッション材を挿入して前記台板の裏面に圧着したことを特徴とする請求項第(1)項記載の耐圧複合床材。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、土足用の木質フロアとして十分適用出来るようにした耐圧複合床材に関するものである。

【従来の技術】

一般に、木質フロアは土足で歩く場所に用いると、鋭いハイヒールの靴や、傘の石突き等先の尖ったもので強く突かれて局部的に凹んだり、孔が開いたりして損傷することがある。

このような事態が生じないように、例えば木質床材に合成樹脂を注入硬化させ、或いは表面を塑質材料で被覆する等の手段が考えられるが、そのような場合には木質独特の詰み心地が失われ、かつ裏面が滑りやすくなる等の新たな問題点が発生する。

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、上記のような従来の問題点を解決するためになされ、木質独特の詰み心地を失うことなく、局部的に強い集中荷重を受けても容易に損傷しない木質床材を提供することを技術的課題としたものである。

【課題を解決するための手段】

このような課題を解決するための手段として、本発明は、表面化粧単板の裏面にフェノール樹脂合皮紙等の耐荷重裏打ち材を貼りし、これを床材

のベースとなる台板の表面に圧着したことを要旨とするものである。

【作用】

表面化粧単板の裏面に耐荷重面打ち材を貼着したので、耐圧が著しく向上すると共に、化粧単板の裏面はそのまま生かされ、木質独特の踏み心地を保持することが出来る。

【実施例】

以下、紙面図面に基づいて本発明の実施例を具体的に説明する。

第1図は本発明の第1実施例を示すもので、1は床材のベースとなる台板であり、台板またはムタ材、集成材等の木質材からなり、厚さは2.4~20mmに形成されている。2は床材の表面化粧単板であり、その厚さは0.2~1.5mmで、裏面側に耐荷重面打ち材3が貼着されている。この場合、耐荷重面打ち材3は0.5~1.5mm厚のフェノール樹脂合板であるが、これに限定されることなく、他の適当な材質を用いることも可能である。

尚、化粧単板の裏面側に、面打ち材としてガラ

ス織維や和紙等を貼着したものは従来存在するが、これは化粧単板の割れを防止するためであり、耐圧を向上させる目的のものではない。

前記のように耐荷重面打ち材3を貼着した表面化粧単板2は、前記台板1に圧着されて本発明に係る床材が形成される。

このようにして形成された床材は、局部的な箇所に対する耐圧が著しく向上し、ちなみに従来の床材では60kgf/cm²以下の圧力で容易に孔が開き復元が不可避であったが、この床材では80kgf/cm²でも0.3mm以下のごく僅かな凹みが生じただけである。

第2図は、本発明の第2実施例を示すもので、前記と同様に台板1と、表面化粧単板2と、この表面化粧単板の裏面に貼着した耐荷重面打ち材3を有する点は同じであるが、前記台板1に圧着する際にクッション材4を押入する点が前記第1実施例と異なる。この場合、クッション材4は厚さが0.5~10mm程度のゴムシートまたはゴムの発泡材やエチレン発泡材等を使用することが出来る。

第3図は、本発明の第3実施例を示すもので、前記第1実施例または第2実施例の床材の裏面、即ち台板1の裏面に厚さ1~5mmのクッション材5をさらに貼着したものである。

第2実施例、第3実施例のものは、クッション材が介在しているので、歩行時の衝撃を緩和して踏み心地を一層向上させることが出来る。

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、表面化粧単板の裏面に耐荷重面打ち材を貼着したので、局部的な箇所に対する耐圧を著しく増大させることが出来、これによりハイヒールの踵や先の尖ったもので面積が加えられても、簡単に孔が開いたり凹んだりすることはなく、土足用の床材として十分通用することが可能であり、また表面化粧単板をそのまま活かせるので、木質としての良好な踏み心地を保持出来る等の優れた効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の第1実施例を示す分解斜視

図、第2図は同じく第2実施例を示す分解斜視図、第3図は第3実施例を示す分解斜視図である。

1. 1台板

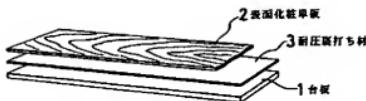
2. 1表面化粧単板

3. 1耐荷重面打ち材

4. 5. 1クッション材

特許出願人 ヤマハ株式会社

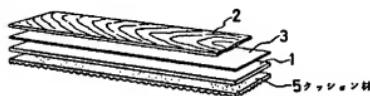
代理人 秋元輝道
(ほか1名)



第1図



第2図



第3図